



呉トピックス



たくさん採れたよ! サツマイモ収穫



▲一生懸命に掘り出す園児ら

10月下旬、呉市仁方地区の学校法人白鳩学園認定こども園しろはとの園児78人は、園内の圃場でサツマイモを収穫しました。

同園は食農教育の一環として、土に触れ農業の楽しさを知ってほしいとJAと協力して取り組み、昨年から同園の敷地内に畑を新たに作って栽培しています。

大きく茂ったサツマイモのツルをJA職員らが刈り取ったあと、園児はクラスごとに畑に入り、JA職員や大人たちに手伝ってもらいながら収穫しました。

植え付け以降、夏の猛暑で生育が心配されましたが、何個も連なって出てくるイモを見て園児らは大きな声を上げながら喜んでいました。

同園は11月初旬に保護者や地域住民を招いて焼き芋大会を開催。JA営農指導員らがサツマイモの育て方や栄養などについてわかりやすく説明しました。



江田島きゅうり収穫ピーク

10月中旬、江田島市で秋冬キュウリの収穫・出荷がピークを迎えました。江田島市特産の「江田島きゅうり」を栽培する江田島野菜出荷組合胡瓜部会は10月初旬から収穫が始まり、1月中旬まで約220tの出荷を計画しています。

「江田島きゅうり」は4月から7月中旬に出荷する春夏キュウリと10月から1月にかけての秋冬キュウリがあり、夏以降の好天で生育が進み、例年に比べて1週間程早く収穫を迎えました。早朝から収穫に追われる小松真也組合長(43)は「仕上がりは良好で品質



▲大きさを見極めながら収穫する小松組合長

の高いキュウリに仕上がっている。自信を持ってキュウリが出荷できるよう部会員が一丸となって取り組んでいく」と話しました。



初期消火技術を競う 大会に出場

10月中旬、呉市警固屋の警固屋公園多目的広場で開催された第34回初期消火技術大会に支店職員6人が参加し、男子、女子、男女の各部に2人一組で出場しました。

今大会は60チームが出場。呉市消防局が事業所自衛消防隊員の初期消火技術の向上と防火意識の高揚を目的に開催。一人ひとりが担当に分かれて適切な通報や危険物の運搬、消火器での初期消火などの技術を競いました。



▲消火器で的を狙うJA職員



令和5年産米の検査始まる

10月中旬、呉アグリセンタ―で令和5年産米の検査が始まりました。初日の検査はヒノヒカリやコシヒカリ、あ



▲慎重に検査する検査員

きさかりなど471袋(1袋30kg)。11月末にかけて、うるち米と酒米を数回に分け検査しました。

JAの農産物検査員と支店職員ら7人が参加し、検査員が穀刺で玄米を検査皿に採取。水分量や粒の大きさや形、熟成具合、カメムシの被害粒の混入程度を念入りに検査して等級を格付けしました。

検査した米は全量をJA全農ひろしまへ出荷しました。



落葉果樹

苗木の植え付け

12月は苗木の植え付け適期です。購入した苗木を、切り返しせずにそのままの状態です。定植しているものがよく見られますが、定植後の苗木の切り返しは将来の主幹の長さに関係します。

棚栽培の品目は長めに残しますが、カキ、モモ、スモモなどでは主幹の高さが40〜50cm前後が望ましいです。いずれも充実した芽のある上の位置で切り返ししましょう。

イチジク

●密植園の間伐
家庭菜園でも、密植園では作業性低下だけでなく病害虫が発生する恐れがあります。

家庭菜園

畑栽培の冬対策

●土づくり

10月以降、気温が低下してくると、肥料の分解が遅くなり効き目も鈍ります。基肥の投入は、種まきや植え付けの3週間前に実施しましょう。夏野菜の栽培で肥料がまだ効いている場所なら、あえて元肥をせずに栽培してみよう。

もし、基肥が遅れた場合は、比較的寒さに強い葉物野菜（コマツナ、ホウレンソウ、チンゲンサイなど）を育てみましょう。

●黒マルチシート被覆

黒マルチシートを張ると地温が上がるので、種の発芽や生育などに良い効果が出ます。シワがないように、ぴったりと土の上にマルチシートを張りましょう。



作業性を良くしようと、強いせん定を実施し、樹が暴れている園地を見かけます。まずは間伐を優先的に行ないましょう。

●せん定

落葉完了後の12月〜翌年2月までに行ないます。特に暖冬の場合、せん定時期が早いと切り口から樹液が出る可能性があります。そのような場合は、せん定開始を遅らせましょう。

イチジクのせん定は、主枝2〜3本の開心自然形が主流です。樹高は2・5m程度以下で保ちます。基本的に切り返す枝は、外芽のすぐ上で切るようにします。

混みあったところは枝を間引き、30cm以下の短い枝は、成木の場合、1樹あたり10本程度残し、早出し芽（収穫が早い果実が結実する芽）として利用しましょう。

今年植えた苗木は、植え付け後に40〜50cmで切り返します。

植え付け1年後のせん定は、主枝候補として伸ばし、誘引した2〜3本を基部の分岐点から80〜100cm先の外芽の直ぐ先で切り返しましょう。

●園内の清掃

せん定枝・葉・残果は、病害虫の発生源となるので、園外に持ち出して処分しましょう。

●防寒対策

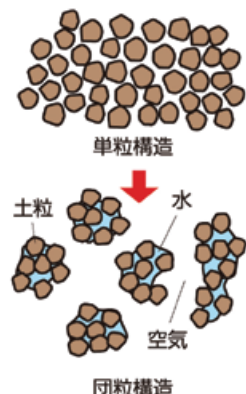
気温が10℃を下回ったら、園芸用ビニールを使用してトンネルを作り、防寒対策をしましょう。防虫ネットの上から大丈夫です。ただし、気温が15℃以上になると、ビニール内が必要以上に高温になり蒸れてしまいますので気温の上昇とともに外しましょう。

●寒起こし

霜が降りる12〜2月ごろに、何も栽培していない畑で行なう土壌の改良作業を「寒起こし」といいます。地中の部分を掘り起こして冷気にあてると、病害虫を死滅させる効果が期待できます。また土が凍結と解凍を繰り返すことで、土の中に隙間ができて野菜作りに適した団粒構造の土壌になります。

効果が大きく出るのが、スコップが入りにくい土質が固く締まった土壌です。寒起こしをすると、春にはサラサラの土質になり、根張りが良くなります。また、害虫が多い場所や雑草の生育が盛んな場所にも効果が期待できます。

■良い土の団粒構造



カキ

●せん定

カキは元々高木性なので、下から見た状態と脚立に登った状態を参考に、不要な太枝をせん除することから行ない、次の要領で進めていきましょう。

- ① 太い不要な枝を切る。
- ② 主枝・亜主枝の先端を切り返す。
- ③ 上下が重なった枝は、伸びている方向を考慮しながら切る。

●せん定

枝が混みあっていると日陰ができ、芽の発生が極端に少なくなってしまう、実を着ける部位が、先端部分に上がつてしまい収穫量も低下します。樹の内部まで日が入るような整枝、せん定を心がけましょう。

●モモ

- ④ 内向枝（樹の中心部に向かって伸びている枝）はもとから切る。
- ⑤ 枯れ枝はすべて除去する。

MEMO

落葉果樹は、秋に落葉してから翌春に発芽するまでの期間が休眠期です。休眠期は生理的に2つの時期に分かれます。1つは自発休眠期。芽が生理的に眠っている時期です。自発休眠に入ってから、一定期間の低温に遭うにつれて、次第に休眠から覚めていきます。落葉果樹の自発休眠明けは、早いものは1月中旬で2月には大部分のものは休眠が終わります。この時期の芽は生理的な眠りからは覚めていますが、気温が低いために活動できない状態にあり、これを他発休眠と呼びます。他発休眠の芽は温度が上がれば直ちに発芽できる状態となります。暖冬の年は、低温に遭う時間が短くなる恐れがあり、せん定開始

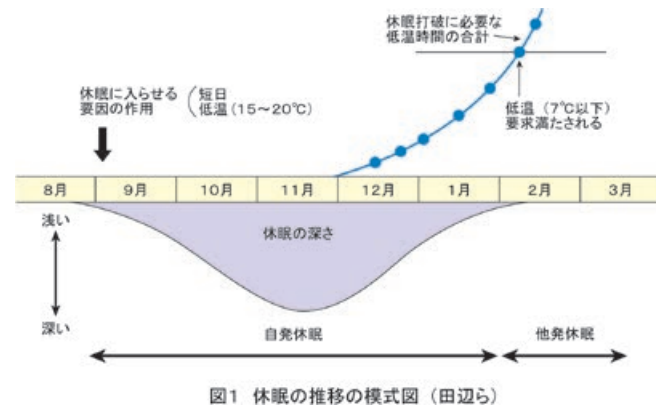
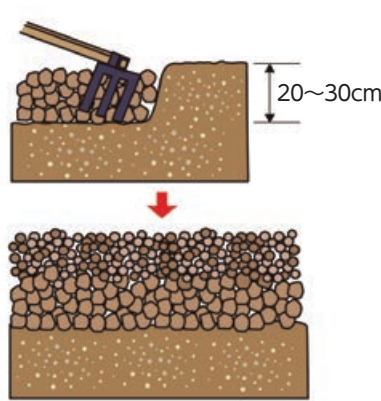


図1 休眠の推移の模式図（田辺ら）

時期も遅くなる傾向にあります。気象状況を確認しながら取り掛かってください。

■寒起こしの作業手順

- ① 1㎡あたり、1ℓの家畜ふん堆肥や米ぬかなどをまんべんなく散布します。微生物のエサになり、養分の多いふかふかの土を作ってくれます。
- ② 20〜30cmくらいの深さから、てこの原理で土を地表に裏返しにするように掘り起こし、表面積を広げます。土の塊は崩さないようにそのままにしておきましょう。
- ③ 約1カ月、寒さにさらします。

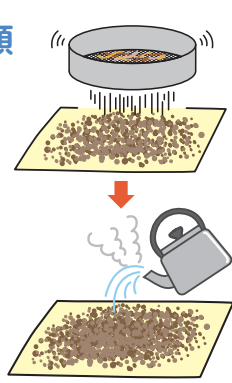


プランター栽培の冬対策

比較的環境の良い場所です。プランター栽培でも、冬の防寒対策やメンテナンスをすることで、より植物の生長が良くなります。春夏栽培で使ったプランターの土は、春に向けて改良しておくといでしょう。

■土のクリーニング作業手順

- ① ふるいを使って、土の中の根や害虫を取り除きます。
- ② 不織布やビニールシートの上に土を広げて、熱湯をかけます。
- ③ 屋外に置いて霜と寒さにさらします。2〜3週間に1度かき混ぜると、病害虫を死滅させることができます。2カ月間は冷気にあてましょう。



●土をクリーニングしよう

冬の間、プランターで野菜を育てないならプランターの中の土をクリーニングしておきましょう。病害虫を除去し、土を元気にしておくことで、春から栽培する植物がより元気に育つようになります。

●プランターにカバーをしよう

寒さに強い野菜でも、霜が降りると葉を傷める可能性があります。日中10℃以下の日が続くようなら、プランター全体を園芸用ビニールなどで覆って保温しましょう。また、寒くなる夕方から夜だけ室内に移動する方法もあります。

ときめき ♡ 女性部通信

令和5年度下期共同購入商品研修会 開催

J Aひろしま女性部呉地区本部は10月中旬から下旬にかけて、7支部で下期共同購入商品研修会を行ない、部員82人が参加しました。

研修会は、共同購入で新しく取り扱う黒酢入り調味料や麺類、グミなどの商品を中心に学習。また、万田発酵株式会社から講師を招いて商品の説明を受けました。



▲講師の話に聞き入る部員（鹿川支部）

J Aひろしま女性部 呉と広島北部が交流

女性部呉地区本部の部員22人は11月初旬、広島北部地区本部（安芸高田市）を訪ね、交流会を開きました。

J Aひろしま女性部の発足を機に県内の山間部から島しょ部までエリアが拡大したことで、土地柄の異なる地区本部同士が交流し、活動の幅を広げようと企画されました。

交流会は地区本部それぞれの支部活動や特産品を紹介し、グループごとに分かれて意見交換しました。

呉地区本部の前田ミツエ部長は「短い時間だったが、海と山のつどいが出来て良かった。次はぜひ呉にお迎えしたい」と笑顔で話しました。



▲違う地区の部員同士で交流を深めました



▲広島北部地区本部の「ほねほね体操」で身体を動かしました

「江田島を知ろう」研修旅行開催 中町支部



▲実際に使われている踏切やトンネルも見学しました

女性部中町支部は11月初旬、「江田島を知ろう」と市内の名所を巡る研修旅行を企画し部員57人が参加しました。2班に分かれて行なった研修は、広成建設の研修センター「～み・ら・い～」でJR西日本在来線の踏切や新幹線のトンネルなどを再現した施設、オイスターファクトリーでカキ加工場を見学。オイスターカフェで食事を楽しんだ後、大柿地区歴史資料館・瀬尾記念館で大柿町の文化財や瀬尾弘吉氏の寄贈書、関連写真の展示を観覧しました。